第1回 市長と語ろう！ふれあいトーク（ものづくり）会議記録

- 1 日時 平成21年8月10日（月）午後5時30分から6時30分
- 2 場所 高岡地場産業センター 3階研修室
- 3 出席者
  - ・高岡工作連盟会員
  - ・「高岡銅器協同組合」などものづくり関係者
  - ・高岡市
市長、デザイン・工芸センター所長、広報統計課長

4 会議次第

- (1) 市長挨拶
- (2) 各団体活動紹介
  - 高岡工作連盟
  - 高岡銅器協同組合
- (3) 意見交換

.....

市長挨拶

- ・ アイデアのキャッチボールをすることが本トークの目的。但し、本日は、実際に取り組まれている内容を聞かせてもらうのが中心。産学官の取組の中でシーズを取り上げて、それを活かす方法について行政としてお手伝いしたい。仕組みとしての連携のあり方を模索していきたい。

各団体の活動紹介

高岡工作連盟

- ・ 工作連盟の由来及びハイヒルの紹介。
- ・ 今回、全国中小企業団体中央会の補助事業に採択され、バックルの製作に取り組んでいる。バックルはいろんな応用が利く商品であり、広がり期待できる商品でもある。市には、ソフト面での協力を望んでいる。

高岡銅器協同組合

- ・ 組合創立54年。銅器の生産、販売に関する統計は最近出ていないようだが、非常に厳しい状況にある。組合としても様々な取組をしてきたが、厳しい状況を変えるには力不足である。市には引き続き支援を期待している。

意見交換

出席者

- ・ 当社のブランドは戦略的に作り上げた訳ではなく偶然が重なってできたもの。全国

には、漆器、陶磁器などの地場産業は多数あるが、銅合金鋳物があるのは全国で高岡だけ。銅器を高岡から全国に発信したい。ものづくりデザイン科の人材育成の取組は、高岡にとってとても大事。5、10年後に成果が出ると考えている。

出席者

- 今年、初めて自社単独で展示会に出展。これまで製作してきた仏具とは違う生活用品を出品。反応は上々であったが、これからが正念場と考えている。

出席者

- おりんの音を調べてみた。現在は、学校のチャイムに使ってもらっている。西洋のジングルベル、ウエディングベルは楽しいイメージがあるのに対して、日本の場合は、亡くなったときだけ。仏壇のお参りだけでない使い方を考えたい。

市長

- 都会では風鈴を吊るす場所もなくなってきているが、このような住環境の変化を捉え、家の中で聞く風鈴というのも考えてみてよいのではないかと。生活感覚の差を取り入れるのも一つの方向。業界支援について、市としてシステムチックに何か作れないか考えたい。アイデアをどこに持ち込むのか、タッグを組むとすれば誰が良いのか、資金、作業場が要るのかなど様々な要望、相談に対する窓口の充実化を図る必要がある。市としても関係者でPJチームを作ることを考えているところ。
- 最近の住宅は、仏間、床の間がなくなってきているが、設計士は、それらに代わるものを考えていない。仏間や床の間は、日本人の精神の拠り所。高岡については、ものづくりのポテンシャルはまったく心配ない。商品の売り込みに当たり行政の力を借りたい。